

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		-	-	-
		商店街（代表者）	販売量の動き	・春節にあわせて、中国に青果物を輸出する動きが強まっている。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・消費税増税後の10～11月は駆け込み需要の反動もあり、前年を下回る厳しい状況が続いていたが、12月中旬から回復傾向に転じている。また、外国人の来客数も12月に入ってから、徐々に回復してきている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・キャッシュレス・消費者還元事業により、客のキャッシュレス決済が定着してきている。また、キャッシュレス決済利用者の客単価が上昇傾向にある。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・キャッシュレス・消費者還元事業の効果もあり、消費税増税後の反動減はほとんどなく、売上が順調に推移している。特に4K、8Kテレビの販売が好調である。
		その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・12月はキャッシュレス決済の利用が加速的に増え、売上アップにつながった。ただ、先行きの動向を判断するには早すぎる。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・来客数、売上共に、前年から5%ほど増加している状況が続いている。予約がコンスタントに入り、ばらつきがみられないため、その分が売上の増加につながっている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・年末になると、日本人観光客が大きく減る傾向にあるが、最近は外国人観光客のお陰で助かっている。年末の天候が穏やかだったこともあり、売上は前年比99.8%、一昨年比113.3%となっている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・消費税増税後における客の買物の仕方として、価格を気にしている様子がうかがえる。迷いながらも、必要な物、欲しい物を厳選して買い求めている。また、外国人観光客については、取扱件数が少なくなっている上、昔のように籠に山ほど買い込むこともなく、欲しい物を厳選して買っている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・本来であれば、12月は1年間の中で1番の繁忙期であるが、今年は風向きが異なっている。忘年会などが少なくなっており、夜の飲食店に出掛ける機会が減っている。10月の消費税増税を契機に潮目が変わったとみている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・12月商戦に入り、クリスマス商材や年末年始商材などにおいて、必要な商材のみを買い求める客が目立つ。客の様子から、価格が安いからといって衝動買いしなくなっている状況がうかがえる。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・12月も、11月と同様に前年並みの実績を確保できている。ただ、消費税増税が実施された10月以降、来客数が減少している一方で、客単価がやや上昇している。これらのことから、買物の頻度を落とし、節約を考えながら生活している家庭が多くなっていることがうかがえる。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・消費税増税の影響が続いている。特に酒の売上が非常に悪い状況が続いている。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・クリスマスギフトシーズンであるにもかかわらず、客単価が非常に低い。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・12月は来客数が前年よりも減っていることに加えて、客単価も下がっている。価格を調べている客もみられる。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税後の受注量が一向に上向いてこない。新型車の投入も焼け石に水であり、受注量に及ぼす影響が限定的である。全体的に景気の悪い状況が続いている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税から少し時間が経過したが、なかなか回復傾向に転じてこない。
	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が安定していることもあり、変化がみられない。	

高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・前年よりも売上を落としたが、どうにか例年並みの売上となった。例年のような降雪による悪影響がなかったことが幸いであった。前半はランチが不調であったが、ボーナス支給日頃から、前年並みの売上に戻ってきた。クリスマス前後は他店のテイクアウトが善戦したこともあり、例年よりも売上が下がった。飲食店を利用するより、家庭での飲食を優先する傾向が強くなっているようであり、消費税増税の影響が感じられた。
旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・基幹産業である農業関係者による売上が好調であった。
旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・前年と比べると来客数が減っており、回復の兆しが見えない。
タクシー運転手	来客数の動き	・イベント関係者や外国人観光客による利用状況は前年並みであった。前々月や前月と比べても、状況に変化はみられない。
タクシー運転手	販売量の動き	・労働力不足が顕著になってきており、思ったほどの売上が望めない状況となっている。
タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前や前月と変わらない状況にあり、景気はやや悪い方向にある。この先も同じような状況で推移することになる。
商店街(代表者)	販売量の動き	・クリスマスギフトについては、販売量、客単価共に落ち込んでいる。特に客単価の落ち込み幅が大きくなっている。
商店街(代表者)	お客様の様子	・客との会話の中で、景気が良くないという声がたくさん出ている。
商店街(代表者)	来客数の動き	・年末大売出しの時期であるが、来街者数は過去3年間で最も少ないとみられる。特に景品の抽選会場においては、例年であれば少ないながらも列ができていたが、今年は行列もほとんどみられない。また、消費税増税の影響なのか、前月に引き続き区域内の歩行者やバス停における乗降客の数が減少している。年金支給日以降の買物客も増えていない状況にある。
商店街(代表者)	来客数の動き	・消費税増税後から低迷が続いている。高額商材はもちろんだが、一般商材も販売量が減少している。特に飲食店は10%以上落ち込んでいる店舗が多い。これらは消費税増税の影響というよりも、消費マインドの低下が要因とみられる。
百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・12月に入り、外国人観光客による売上は以前の水準まで戻ってきているが、一般客については客単価の低下や購買率の低下がまだ続いており、前年並みの売上確保が厳しい状況となっている。
百貨店(役員)	競争相手の様子	・競合店も含めて、ここにきて消費税増税の影響が出てきている。
百貨店(営業販売促進担当)	販売量の動き	・消費税増税以降、来客数が回復しないまま推移している。買上客数の落ち込み幅はそれ以上であり、総体的に客の節約志向がうかがえる。
コンビニ(エリア担当)	それ以外	・天候要因の影響が大きい。雪不足により、本来稼働している店舗や業者が不振となり、そこへの納品量が減少している。また、繁忙期であるはずの飲食店の動きが悪い。消費税増税や若者の飲食離れが影響しており、酒やたばこなどの免許品を中心に納品量が大きく減少している。
乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・3か月前の9月は消費税増税前だったため、景気は悪くなかったが、10月以降は消費税増税の影響で、落ち込みがみられる。ただ、春先になれば、回復するとみられる。
乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・客の動きが以前よりも悪くなっている。販売量も前月と比べて減少している。
自動車備品販売店(店長)	来客数の動き	・消費税増税後の来客数が前年割れしている。12月はボーナス時期でもあるが、売上の山ができなかった。
高級レストラン(経営者)	お客様の様子	・観光客が減っている。また、客の様子をみても消費をしていなそうな雰囲気が漂っている。

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・例年、12月の売上はクリスマスのある下旬がピークとなるが、今年は曜日並びの影響もあり、予約が少なかった。また、学生の冬休み期間に入った後も、市内客、家族連れの客が余り目立たなかった。この時期は観光客が少ない時期であるため、苦戦することを見込んでいたが、売上は前年比マイナス13%と予想以上に厳しい結果となった。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・消費税増税の影響がじわじわと効いてきている様子がうかがえる。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・令和になって初めての12月ということもあり、きっと忘年会などを楽しむのではないかとみていたが、思っていたほどの客足ではなかった。例年と比べても、客の数が若干少ない。
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・韓国からの外国人観光客が依然としてマイナス基調にあるほか、国内客についても北海道行きの旅行商品の売行きが低調である。芸能コンサート、スポーツイベントの開催はあったが、需要を取り戻すことができなかった。
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・観光閑散期になっているため、繁忙期と比べれば外国人観光客が減少している。ただ、11月までの利用者数は、前年の北海道胆振東部地震の影響から回復していることもあり、前年をやや上回って推移している。消費税増税の影響は余りみられない。
	旅行代理店(従業員)	競争相手の様子	・競合他社も苦戦しているのか、安売り合戦となっている傾向がみられる。
	タクシー運転手	来客数の動き	・12月は1年間でタクシーの利用が最も多く、売上也1番良い月であるが、今年は例年よりも雪が少ないことから、タクシーの利用が前年よりも少なくなっている。タクシー1台当たりの売上也前年をやや下回っており、乗務員不足でタクシーの稼働が大きく低下しているため、会社の売上は前年比で5%強のマイナスと大きな減収となった。
	タクシー運転手	お客様の様子	・例年であれば、年末で最も稼働の高まる時期であるが、前年よりも客の利用頻度が少ない。降雪が例年より少ないことも影響している。
	通信会社(企画担当)	販売量の動き	・通信に付随して、より価値のあるサービスを付けたものの、都市部の高齢層を中心に、客の反応が見込みよりも鈍い。
	美容室(経営者)	お客様の様子	・消費税増税以降、客の消費に関する傾向が明らかに変わってきている。
	その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・例年と比較して輸送量が減少している上、天候悪化による欠航があることから、悪化の一途をたどっている。
	住宅販売会社(経営者)	お客様の様子	・モデルルームへの来訪客の多くは、分譲マンションの購入を検討しているが、購入時期については慎重に判断している。どちらかといえば、消極的な姿勢の客が主流となっている。
×	スーパー(店長)	販売量の動き	・携帯電話や家電など、住関連の商材の動きが非常に悪い。
×	衣料品専門店(店長)	それ以外	・スーツ需要を抑える風潮になってきており、業界自体が冷え込んでいる。
×	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・例年12月は販売量が多少落ちるものの、今年は特に落ち込み幅が大きかった。
×	観光型ホテル(経営者)	来客数の動き	・国内客、外国人観光客、団体客、個人客、全ての予約状況が良くない。外国人観光客の団体については韓国が全く回復せず、中国、台湾なども伸びがみられない。国内からのメディア団体において多少の伸びがみられる程度である。大手旅行会社やオンライン・トラベル・エージェントの集客数も悪化している。
×	タクシー運転手	販売量の動き	・消費税増税直後こそ、売上への影響はみられなかったが、年末の忘年会シーズンに入ってから前年比マイナスで推移しており、増税の影響が感じられる。
×	観光名所(従業員)	来客数の動き	・暖冬の影響で12月に入ってから雪の量は多くないものの、降雨を伴う霧による視界障害、暴風雪を理由とした営業見合わせ、運休が多く生じている。12月26日時点の利用乗降客数は前年比84%と激減している。

	x	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・各業種において、消費税増税の影響が大きく表れている。
企業 動向 関連 (北海道)		-	-	-
		家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・2020年の東京オリンピックに向けて公共施設の整備が進行しており、それに伴う特需が多くみられる。また、為替が安定していることで、海外への輸出も比較的好調に推移している。
		建設業(役員)	受注量や販売量の動き	・例年と比べて積雪量が極めて少なく、各工事現場では年度内完工へ向けて順調に進行している。それに伴い、利益確保の上振れが見込める。
		食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・相変わらず前年と比較して1割ほど売上が落ちている。
		輸送業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・紙パルプ関連製品の荷動きが停滞気味であり、それに伴い古紙の荷動きも鈍い。生乳、飲料の荷動きは順調であるが、例年並みの年末需要にとどまっている。
		通信業(営業担当)	取引先の様子	・需要について、客先からは引き続き一定の量と質を維持しているとの声が多くみられる。
		金融業(従業員)	取引先の様子	・観光関連で韓国人観光客の減少による影響がみられる一方で、個人消費は消費税増税前の駆け込み需要の反動減が剥落してきている。また、公共投資と民間設備投資は堅調に推移しており、道内景気は3か月前と変わらない水準にある。
		司法書士	取引先の様子	・冬本番を迎えて、取引先である建築業者は停滞期に入ってきたが、例年よりも受注量がやや減少しているようである。消費税増税などが要因となり、全般的に景気は停滞気味である。
		司法書士	取引先の様子	・今回の消費税増税は2%の増税であったが、高価格の住宅建築においては増税分がかなりの金額となるため、増税が確定した時点から増税前契約が始まっており、10月以降の住宅新築契約が減少している。ただ、住宅建築の着工には時間が掛かるため、景気動向は変化のないまま推移している。
		コピーサービス業(従業員)	取引先の様子	・多少は消費税増税の影響があるが、大きな変化はないとみている客先が多い。
		その他サービス業[ソフトウェア開発](経営者)	受注量や販売量の動き	・要員確保が難しいため、新たな案件を消化できない状況にある。
		その他サービス業[建設機械レンタル](総務担当)	受注量や販売量の動き	・売上が前年比でプラス10%程度の伸びを示している。
		その他サービス業[建設機械リース](支店長)	取引先の様子	・人手不足の声は相変わらずである。受注状況に大きな変化はないが、働き方改革による仕事の効率化を課題としている業者が多い。
		その他非製造業[鋼材卸売](従業員)	受注量や販売量の動き	・ここ数か月は売上予測を上回る結果が続いている。人手不足や働き方改革など、企業が様々な設備投資を行っており、そうした企業努力が要因となっている。
	建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・東京オリンピック後の新規建設を計画している建築主において、次年度着工の是非を判断する時期にあるが、人手不足などの影響で一向に建設単価が下がらないため、着工を先送りするケースが目立ち始めた。	
	x	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前の9月の販売量は前年比プラス8%であったが、12月の販売量は同マイナス6%であった。
雇用 関連 (北海道)		-	-	-
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・今年は雪が少なく、除排雪に関係する運送業の求人が少なくなっているものの、小売や生活関連サービスなどの求人が堅調である。
		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・企業からの求人依頼は3か月前と比較して2割の増加と堅調に推移している。企業では、業績安定及び拡大に向けて、既存戦力の強化と新たな取組に前向きなようである。
	求人情報誌製作会社(編集者)	それ以外	・地域の有効求人倍率が、毎月、過去最高を更新する中、人手不足に対応するためのサービスを提供する企業がみられる。	

	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・12月が1年を通じて1番の繁忙期という業界が多いこともあり、どの企業、店も忙しく過ごしている。ただ、実際の売上や利益がどのような状態なのか分かるのは年が明けてからになる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・11月の有効求人倍率は1.21倍と前年を0.06ポイント上回り、平成22年3月以降9年9か月連続で前年を上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数が減少し、有効求職者数がほぼ前年並みだったことで、有効求人倍率は低下した。有効求人数の減少は、募集人数や求人条件などの精査で新規求人が5か月連続で減少したことによるもので、人手不足の状況は変わらない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・11月の有効求人倍率は1.25倍であり、前年を0.09ポイント上回り、引き続き高い水準で推移している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・消費税増税の影響が出始めている。増税前の駆け込み需要の反動で、前年比8割の売上となっている大型電気量販店がみられる。また、居酒屋では、通常営業だけでの売上確保が厳しいため、年末オードブル、おせち料理などで第2の売上を作っていこうとしている店が多いが、例年になく売行きが悪いようで、取引業者への購入圧力が増しているようである。9月に開店したリーズナブルな価格で大人気の全国チェーン店からは、クレジットカードでの2回払いがこれほど多い土地は初めてとの声を聞いた。さらに、今年は雪不足が追い打ちを掛けており、当地のスキー場はオープンできず、全国的に有名な当地の動物園では、冬の大イベントが実施できないでいることもマイナスに働いている。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・大手及び人気企業の新卒求人活動は例年どおり、ほぼ満足できる充足状況のようであるが、不人気業界や中小企業にとっては今年度も新卒採用の厳しい年であった。未充足部分をアルバイトやパートで埋める悪循環が続いており、新規事業への着手も難しいようである。特に中小企業では収益向上も期待できない状況にある。これらのことから、道内全体をみても好景気に転じる要素が見当たらない。
	×	-	-